



## 上川郡中央医師会創立55周年記念行事

上川郡中央医師会  
北海道医報通信員 水野清司

上川郡中央医師会は、昭和25年4月に新制度による地域医師会として発足した。今年4月に設立55周年という記念すべき年を迎えて椎名会長、木下副会長、医師会役員を中心に記念事業の内容を検討中であったが、去る7月9日午後4時より東川町旭岳温泉万世閣ホテルベアモンテにおいて、記念行事が盛会に行われた。

記念祝賀会に先立ち、これを記念して会員の生涯研修事業の一環として藤原学術担当理事が座長で「北・北海道における心臓血管外科診療の現況」と題して名寄市立総合病院副院長 和泉裕一先生を講師として学術講演会が始められた。

名寄市立総合病院の沿革、特に血管外科の周辺の問題を取り上げ、心臓血管外科領域で扱う疾患とその手術について、特に腹部大動脈瘤手術、冠動脈バイパス手術の近況について、先生ご自身の豊富な症例の中からスライドを多用して理解し易く解説され非常に有益な研修会であった。

引き続いて、記念祝賀会を記念懇親会として始め、椎名会長の挨拶では過去55年間の歩を振り返り、その間の各位の貢献に対する謝辞と最近の医療情勢に触れ、多難な現状に会員が協力連携しあってゆきたいと述べられた。

次いで井村筆頭理事の祝杯で宴が始まった。

会場では会員の家族や元会員も参加されたこともあって過ぎし日を述懐し合う情景もあり、会員共々親睦交流も活発に行われ和やかなうちに藤本副会長の会員と家族に幸多かれとの挨拶で意識深い祝賀会を終了した。

翌10日には、薄曇りの天候となったが、大雪山連峰の風景を遠望しながら記念親睦ゴルフ大会がコート旭川カントリークラブで開催された。

前日の疲れも見せず真っ直ぐピン方向に飛んでゆくナイスショットの連発で楽しいゴルフを満喫した。

一方ゴルフに参加されなかったグループは、雪解けがおそく雪渓を望める旭岳の山腹までロープウエーを利用して登山気分を味わった。

天候もまずまずで、噴煙上げる旭岳の山頂が眺められる姿見駅周辺の高山植物やお花畑と姿見の池の景勝を楽しんだ。

自然の雄大さがはっきり見え、自然の大切さを忘れてはならないことを実感した。

今回の記念行事の運営全般について木下副会長の御尽力により盛会に終わることができたことに感謝申し上げます。

